

# 校内研修計画

阿久根市立鶴川内中学校

## 1 研修主題

自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成  
～キャリア教育における資質・能力の向上を目指して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

#### ア 社会の要請・学習指導要領から

人工知能（AI）やビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられる Society5.0 時代が到来しつつある。また、VUCA の時代を迎え、新型コロナウイルス感染症のため、我々が生活する社会では、様々なことで変革を余儀なく求められ、社会の在り方そのものが劇的に変化すると考えられている。

このような状況の中であっても、生徒が希望をもち、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくことができる資質・能力を高めていくことは極めて重要である。

例えば、日常の教育活動を通して、学ぶ面白さや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させたり、生徒が未知の知識や体験に関心をもち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を体得したりすることである。そうすることで、生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくることができると考えられる。

そこで、学習の場である学校では、社会を担う生徒が社会の一員としての自覚を高め、自分と他者とが共存する力を身に付けることが必要不可欠である。そして、生徒には、変化の激しい社会や人間関係の中で、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が強く求められている。

このことから、キャリア教育を軸とした教育活動を展開することによって、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることにつながるとともに、自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成とそのねらいを共有している。

#### イ 中学校学習指導要領の内容から

学習指導要領（平成 29 年度改訂）の基本方針には、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい資質・能力を児童生徒たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラムマネジメント」の実現を図ることが求められた。学習指導要領改訂の要点は次の通りである。

- すべての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から整理された。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが示された。
- キャリア教育の視点からの小・中・高等学校へのつながりが明確になるように、学級活動に「(3) 1人1人のキャリア形成と自己実現」が新設された。
- 特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を担うことが明確に位置付けられた。
- 学級活動はキャリア教育の要である。

また、図1に示すキャリア教育で育成をめざす「基礎的・汎用的能力」の四つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を統合的に捉え、資質・能力の三つの柱に沿って図2のように整理されている。

【人間関係形成・社会形成能力】多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
【自己理解・自己管理能力】自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
【課題対応能力】仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
【キャリアプランニング能力】「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

図1 キャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の四つの能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学ぶこと・働くことの意義の理解</li> <li>・ 問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりするための方法に関する理解と、そのために必要な技能</li> <li>・ 自分自身の個性や適性等に関する理解と、自らの思考や感情を律するために必要な技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりすることができる力</li> <li>・ 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」をもとに、自分と社会との関係を考え、主体的にキャリアを形成していくことができる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア形成の方向性と関連づけながら今後の成長のために学びに向かう力</li> <li>・ 問題を発見し、それを解決しようとする態度</li> <li>・ 自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していこうとする態度</li> </ul>

図2 キャリア教育における資質・能力

このことから、これまで本校で研究してきた人権教育での取組を基に、三つの柱で整理されたキャリア教育における資質・能力の向上を目指すことにした。

## (2) 学校教育目標から

本校の教育目標は『自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成』である。この目標を達成するための重点課題を以下に示す

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎学力の定着を図る教育の充実（「主体的・対話的で深い学び」）</li> <li>② 人権教育に基づく教育活動の充実</li> <li>③ 主体性を育てる生徒指導の充実</li> <li>④ 小中連携や中高連携による特色ある教育活動の推進</li> <li>⑤ 体力の維持向上と健康の保持増進</li> <li>⑥ キャリア教育の充実と夢実現を見据えた進路指導の充実・計画的な指導</li> <li>⑦ 環境教育の充実(カスミサンショウウオ保護観察の継続)の7項目を掲げている。</li> </ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

このことから、主体性を育てる特別活動をふくめた生徒指導の充実と、基礎学力の定着を図るための教科の授業改善（主体的・対話的で深い学び）とキャリア教育に関わる資質・能力。総合的な学習の時間の活動の3つを柱として、キャリア教育の視点からカリキュラムマネジメントを行った。

(3) 本校の実態から

鹿児島定着度調査や、標準学力検査などの学力調査、またキャリア教育に関するアンケートから、本校の生徒の課題として、主体性や、読解力と表現力、課題対応能力などに課題が見られることが挙げられる。

中2

年度 教科	自校の結果	誤答率	無答率	報告値	県暫定値	県差	基礎・ 基本	思考・ 表現
国語	79.5	16.5	4.0	84.1	76.7	7.4	80.6	78.0
社会	72.7	21.9	5.4	77.4	67.7	9.7	73.2	71.7
数学	73.1	19.5	7.4	79.3	67.1	12.2	79.3	60.6
理科	70.5	26.5	3.0	75.0	70.9	4.1	74.9	59.7
英語	61.5	34.5	4.0	66.8	57.8	9.0	63.1	57.1

中1

年度 教科	自校の結果	誤答率	無答率	報告値	県暫定値	県差	基礎・ 基本	思考・ 表現
国語	88.4	11.6	0.0	93.2	78.7	14.5	93.2	82.8
社会	75.3	23.5	1.2	81.9	64.4	17.5	75.9	74.1
数学	84.4	11.5	4.1	92.6	74.9	17.7	87.7	76.4
理科	86.6	13.0	0.5	94.8	70.4	24.4	86.8	86.1
英語	82.2	17.8	0.0	87.0	68.1	18.9	80.2	87.3

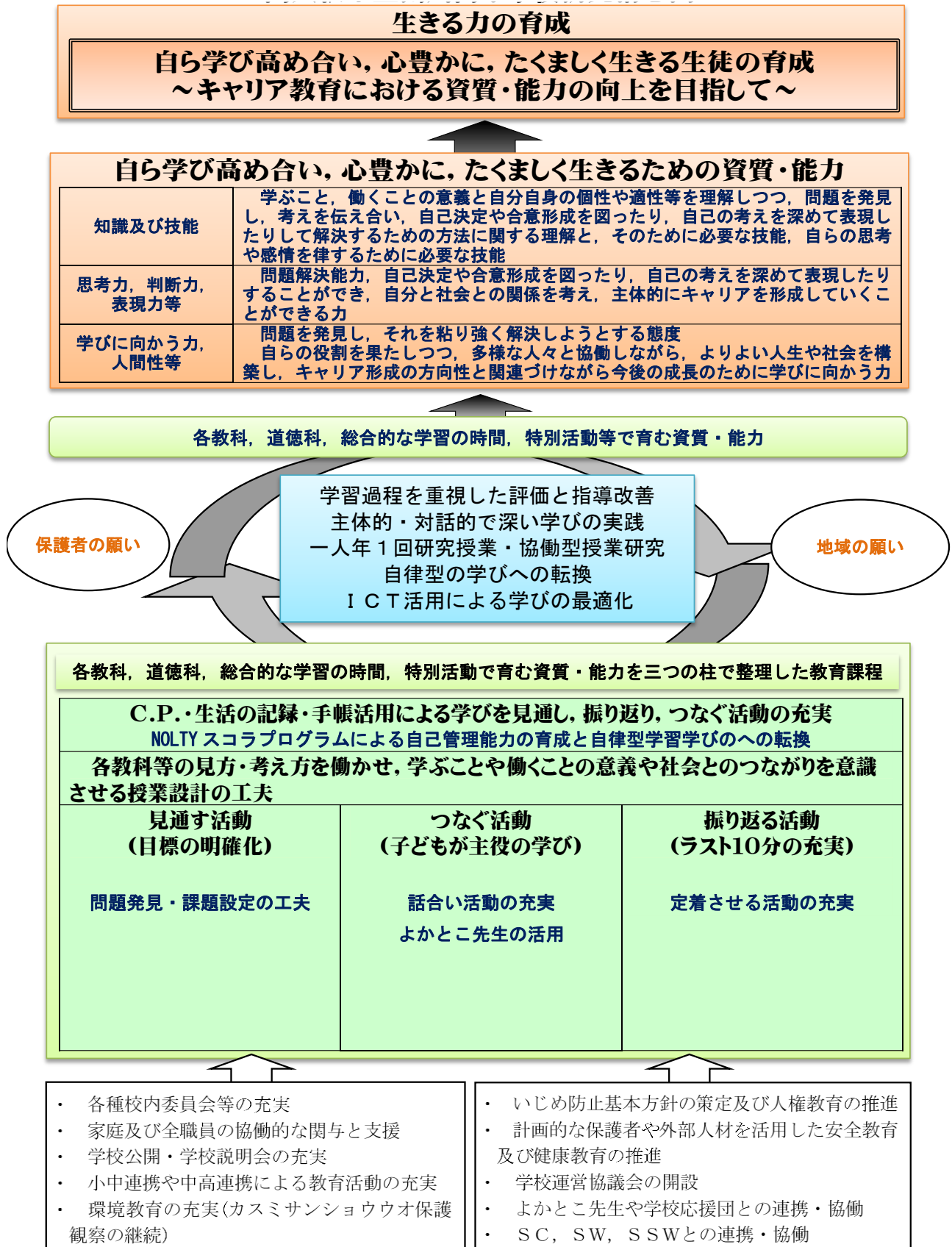
中2					中1				
<b>4 各教科領域等別正答率</b>					<b>4 各教科領域等別正答率</b>				
<b>国語</b>					<b>国語</b>				
<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>		<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>	
話すこと・聞くこと	77.3	17	22		話すこと・聞くこと	77.8%	14	18	
書くこと	77.3	17	22		書くこと	96.3%	26	27	
読むこと	78.4	69	88		読むこと	77.8%	42	54	
伝国に関する事項	80.6	133	165		伝国に関する事項	93.2%	109	117	
<b>社会</b>					<b>社会</b>				
<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>		<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>	
日本の地域構成	70.9	39	55		世界の地域構成	91.7	33	36	
日本の地域的特色	80.0	44	55		人々の生活と環境	69.4	25	36	
日本の諸地域	63.6	28	44		世界の諸地域	61.1	33	54	
近世の日本	73.4	105	143		歴史のとらえ方	92.6	25	27	
					古代までの日本	74.4	67	90	
<b>数学</b>					<b>数学</b>				
<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>		<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>	
数と式	80.2	97	121		数と式	84.9	107	126	
図形	70.1	54	77		図形	84.4	38	45	
関数	76.4	42	55		関数	85.2	23	27	
資料の活用	54.5	24	44		資料の活用	85.2	37	45	
<b>理科</b>					<b>理科</b>				
<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>		<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>	
エネルギー	79.5	35	44		エネルギー	83.3	45	54	
粒子	70.1	54	77		粒子	87.7	71	81	
生命	77.9	60	77		生命	87.0	47	54	
地球	56.1	37	66		地球	88.9	24	27	
<b>英語</b>					<b>英語</b>				
<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>		<b>内容・領域別正答率</b>		<b>正答数</b>	<b>受検数</b>	
聞くこと	68.2	45	66		聞くこと	80.0	72	90	
話すこと	69.3	61	88		話すこと	75.3	61	81	
読むこと	57.9	70	121		読むこと	88.9	72	81	
書くこと	61.4	54	88		書くこと	75.9	41	54	

上述した(1)~(3)の根拠を基に、本校では、キャリア教育を軸とした教育活動を展開し、各活動を充実させ、生徒のキャリア教育における資質・能力の向上を目指すことで、「自ら高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成」を図ることにした。

### 3 研究の仮説

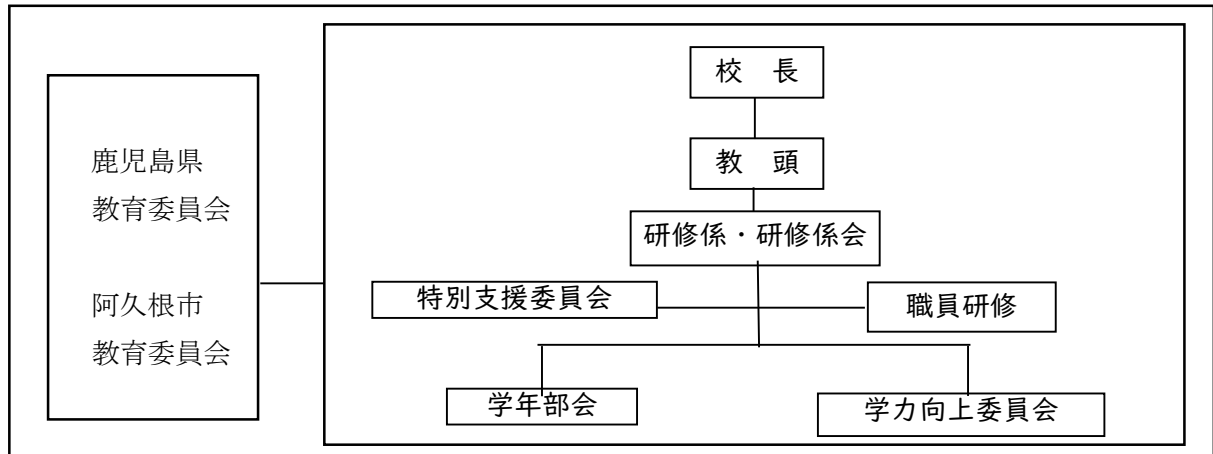
これまでの教育活動を基に、各活動の充実を進めていくことにより、教職員や生徒一人一人が個性を發揮しながら、見通し、振り返り、つなぐ活動をキャリア形成のために主体的に活動に取り組み、自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成につながっていくのではないかと。

### 4 研究構想図



## 5 研究体制

### (1) 研究組織



### (2) 研究内容

- ア 学校教育全体を通して、共に協力し合いながら目的を達成していくような体験を通して、資質・能力の育成を図る。(総合的な学習の時間、人権学習、学級活動、話し合い活動の取組など)
- イ 各専門部や係、学校行事などで一員として役割を果たし、成功体験を味わわせることで、資質・能力の育成を図る。(特別活動、生徒会、学級活動、学級経営、学校行事)
- ウ 主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善にて、学校と家庭が連携して生徒を認め励ましながらか資質・能力の育成を図る。(1人1回の研究授業、協働型の授業研究、課題解決型の学習)

### (3) 検証授業及び授業研究

- ア 鶴中学力向上委員会において検証授業を計画する。
- イ 計画を基に全員が研究授業を行い、授業研究の中で研究を深める。
- ウ できるだけ外部講師を招聘し、研究を深める。
- エ 検証授業指導案は事前に作成し、必要に応じ指導案検討を行い、検証授業に活かす。
- オ 職員による授業参観、授業研究への参加、意見交換の実施。
- カ 年間一回は全員で授業を参観し、授業研究を行う機会を設ける。

### (4) 研究時間の確保

- ア 夏季休業中に研修日を設定する。
- イ 各種研修等に参加した場合は、資料等を持って報告し、情報を共有する。

### (5) 研修内容の充実

- ア 校外での研修に積極的に行う。
- イ 関係機関との連携を積極的に行う。
- ウ 対話のさせ方など、教科横断的に言語活動の充実に関しても研修を深めていく。
- エ GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器の扱いに関する研修を深めていく。
- オ 教科横断的な視点を身につけるためにも、他教科の先生の授業にも自由に参観していい雰囲気づくりを行い、ICT機器の扱いや、言語活動の充実など優れた実践を共有する。

6 令和2年度研修計画 テーマ『自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成』 \*講師の都合で変更有

月	日	曜	主な研修内容	担 当	備 考
4	2	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検(全体) ※複数で点検</li> <li>ICTに関する研修①(新ハード&amp;ソフト)</li> <li>危機管理マニュアルに関する研修</li> <li>生徒指導・特別支援教育に関する研修① (共通理解, 特別支援教育も含む)</li> <li>年間研修計画の検討・確認</li> <li>服務規律についての研修</li> <li>交通安全対策に関する研修</li> <li>特別支援教育に関する研修②(生徒理解)</li> </ul>	安全指導係 研 修 係 管理職・安全指導係 生 徒 指 導 特別支援教育係 研 修 係 管 理 職 安全指導係 特別支援教育係	危険箇所点検 I C T支援員招聘 管理マニュアル変更確認 服装, いじめ問題等  研修計画の確認 服務に関して 交通安全教室
	2	金			
	2	金			
	5	月			
	5	月			
	19	月			
22	木				
5	3	木	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)①</li> <li>人権同和教育に関する研修① (なくそう差別読み合わせ, 人権同和教育週間について)</li> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)①</li> </ul>	研 修 係 人権同和教育係  研 修 係	講 師 招 聘  講 師 招 聘
	6	月			
6	7	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権同和教育に関する研修②(道徳)</li> <li>評価(通知表等)に関する研修 (観点・評定)</li> <li>ICTに関する研修等②(新ハード&amp;ソフト)</li> </ul>	人権同和教育係 調査統計評価検査係 情報教育係	講 師 招 聘 講 師 招 聘
	21	月			
7	12	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)②</li> <li>学力向上(学習指導)に関する研修</li> <li>命の教室(SOSの出し方に関する教育)</li> <li>キャリア教育に関する研修 or I C T</li> </ul>	研 修 係 学力向上委員会  研 修 係	講 師 招 聘 講 師 招 聘 講 師 招 聘
	19	月			
	21	水			
8	2	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関する研修②(新ハード・ソフト)</li> <li>危険箇所点検(校区の確認)</li> <li>キャリア教育に関する研修</li> <li>キャリア教育に関する研修</li> <li>パワハラ, セクハラ防止に関する研修</li> </ul>	研 修 係 防火防災係 研 修 係 保 健 係 管 理 職	講 師 招 聘
	2	月			
	20	金			
	31	火			
9	27	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育に関する研修 or I C T</li> </ul>	研 修 係	講 師 招 聘
10	11	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)③</li> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)④</li> </ul>	研 修 係 研 修 係	講 師 招 聘 講 師 招 聘
	21	月			
11	4	木	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者対策研修(生徒合同の研修)</li> <li>人権同和教育に関する研修③(道徳)</li> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)⑤</li> </ul>	防火防災係 人権同和教育係 研 修 係	講 師 招 聘 講 師 招 聘
	8	金			
12	2	木	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)⑥</li> <li>教育課程研修① (本年度の反省等)</li> </ul>	研 修 係 教 務 主 任	
1	7	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程研修② (次年度へ向けて)</li> <li>鹿児島学習定着度調査 (集計方法と分析方法の確認)</li> <li>主体的・対話的で深い学びの在り方(研究授業)⑦</li> </ul>	教 務 主 任 調査統計評価検査係 研 修 係 研 修 係	講 師 招 聘
	24	月			
2	15	火	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程研修③(各領域等の計画作成等・係会)</li> <li>教育課程研修④(各領域等の計画作成等・係会)</li> <li>教育課程研修⑤ (年間行事予定)</li> <li>教育課程研修⑥ (年間行事予定)</li> <li>次年度研修計画について</li> </ul>	教 務 主 任 教 務 主 任 教 務 主 任 教 務 主 任 研 修 係	学年末午後 学年末午後 学年末午後
	16	水			
	17	木			
	21	月			
	28	月			
3	10	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度計画</li> </ul>	研 修 係	

7 テーマ研修 「キャリア教育における資質・能力の向上を目指して」に関する今年度の目標

教科	今年度の目標	努力点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</li> <li>・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を身につける。</li> <li>・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句、短歌、物語の創作や意見文、評論文など様々な形態の文章を書く時間を設定する。</li> <li>・感想や作品の交流や話し合い活動を通して、自分の意見を伝え、考えを広げたり深めたりする時間を設定する。互いに助言しあいながら考えを共有する時間を設定する。</li> <li>・リーリングスキル、論理的思考力を育成する教材に取り組む。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象の特色や社会に見られる課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習の場を設定する。</li> <li>・自分の考えを発表できる場を設定する。</li> <li>・話し合いを通し、考えを深める場を設定する。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもった課題解決能力の育成。</li> <li>・家庭学習の充実。</li> <li>・ICTを活用した効果的な教材の提示。</li> <li>・小黒板やタブレットを使った学び合い活動の活性化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決を促すための発問や社会と関連した教材の工夫。</li> <li>・計算ドリル等の継続と主体的に課題を発見、解決しようとする家庭学習の推奨。</li> <li>・多様な意見を取り入れるために、小黒板やタブレットの効果的な活用。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習に取り組めるような学習課題を設定し、自分の考えを表現し、多様な考えを受容しながら深い学びへと向かう授業の実現。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意欲を喚起する、学習課題の設定。</li> <li>・一人一台のPCを活用した調べ学習の設定。</li> <li>・PCを活用したレポート課題の取組。</li> <li>・『デジタル』や『アナログ』両方の良さを活かし、思考ツールを使った学びの活性化。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり、更新されたりすることを生徒が実感し、自信を持つことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような力が身につけば良いか見通しを持って授業に取り組ませる。</li> <li>・外国への興味関心やグローバルな視点を持たせる。</li> <li>・自分の考えを発表したり、相手と対話したりして、プレゼンテーション能力や実践的なコミュニケーション能力をつける言語活動を行う。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を表現したり、聴くことにより、その良さや美しさを見いだしたりできるようにする。</li> <li>・生活や社会の中の音や音楽、音楽文化への理解を深めることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動や個人での発表の場を設定する。</li> <li>・ITCを活用した振り返り。</li> <li>・タブレットを使用した調べ学習の発表や鑑賞した音楽の感想をまとめ、発表する。</li> <li>・様々な音楽に触れる機会を増やす。 (長期休業中の課題の活用)</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互い出来上がった作品を見合う、鑑賞活動の充実を図っていく。その中で、相手の立場に立った評価、反省を含む意見の交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた授業時数の中で、出来るだけ製作スピードを合わせ、鑑賞の時間を確保する。</li> </ul>
保体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性に応じた技能等及び健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付ける。</li> <li>・自他の課題を発見し、合理的解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付ける。</li> <li>・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し、互いの成長をより具体的に実感させる。また、「する・みる・支える・知る」の視点から運動やスポーツを捉えることができるようにする。</li> <li>・攻防の考え方の知識習得のために体育理論の理解を徹底させる。</li> <li>・適当な場面でICT機器を活用することで、思考を深め、自分の考えを説明することや、仲間との話し合い活動を充実させる。</li> </ul>
技・家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と技術についての理解を図り、技能を身に付ける</li> <li>・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を身に付ける。</li> <li>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族が生活する上で直面する問題の解決に向けた課題設定の工夫を行う。</li> <li>・仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるために、実践的・体験的な活動の内容を工夫することで、将来の職業の選択につなげる。</li> <li>・適当な場面でICT機器を活用することで、自ら問題を見いだして課題を設定し、解決を図る問題解決的な学習を充実させる。</li> </ul>